

巻頭対談

# 相模原市の「地域力」



# 相模原市の「地域力」

— 地域を支える市民の力 — について語る

## 対談

相模原市長 加山 俊夫

相模原市自治会連合会会長 細谷 昇

司会…市民活力推進部長 矢島 義明

お二人が考える「地域力」についてのイメージを教えてください。

**市長** 地域力とは、地域にお住まいの方たちが自分たちで安全・安心な環境を作り上げていくことだと思います。地域の人が手が携えて課題を解決する、この連携力、連帯力が「地域力」と言えるのではないのでしょうか。

現在は、多様化、高度化した市民のニーズに行政だけでは対応できない時代でもあり、こうした地域の結束力が高いということは素晴らしいことで、そのことが住民生活にも反映されるのではないかと考えています。

**細谷** 私は現在、市の連合会長になっていますが、昨年度までは地元の自治会長を十四年ほど経験させていただきました。その経験から言いますと、やはり相模原の地域力といえば「自治会力」というのも良いのではないのでしょうか。

自治会は地域を「面」として捉えている唯一の団体です。他の団体は、「点」として活動することが多いと感じています。自治会の活動は、各地域で多少温度差があるとは思いますが、「地域力」という意味では、自治会の力が大事だと考えています。

「地域力」を担う自治会の課題をどう捉えていますか？

**細谷** 自治会が抱えている課題といえば、未加入者対策、役員の高齢化、担い手不足、参加者の減少などありますが、これらの課題は、長年にわたって関係者が感じていた課題で、古くて新しいものですし、なかなか表に出にくいものでした。この課題に市自治会連合会として対応するため、昨年から2カ年にわたって「地域を元気にする検討会議」を立ち上げて議論をしてきました。検討結果は、提言書としてまとめ、市長をはじめ、公民館、社会福祉協議会の関係者に提言させていただきました。

このような提言としてまとめたことに

より、取り組みを進めやすくなったと感じており、非常に良かったと思っています。



左から細谷会長、加山市長

**市長** 自治会の課題解決に尽力してきた方々は、地域に多くいらつしやると思いますが、このような会議でしっかりと検討し、地域全体で共通認識を持ったこと、自治会が自らやることもしっかりとやっていくということを決めたということ、また、それを行政も同様の課題として認識したということは、行政と地域が一体となったパートナーシップの醸成につながったと考えています。

これは大変重要なことであると思えますし、行政と市民が一体となったパートナーシップにおけるシンボリックな活動の一つになったと思っています。

### 自治会の活動は、昔に比べると変わってしまったのでしょうか？

**市長** 私の経験でお話すれば、昔の自治会は、自分たちの家の前の清掃、道普請、環境のための活動などを、みんな当たり前に行っていました。最近では、行政への依存度合いが高まってきており、自治会の共同活動が希薄になってきていると思います。

しかし、市全体で見れば、防災、交通安全、防犯、環境美化、教育、一人暮らしお年寄りへの支援や医療も含めて、様々な

分野で地域が支えなくてはいけない、自主的な対応や備えをしなくてはいけない、力を持たなくてはいけないという意識を自治会の皆さんが持っていると思っています。確かに、見掛けは昔の自治会活動よりも参加者が少ない中で、地域の協力関係が薄れているという見方もできるかもしれませんが、組織力の点から見ても、先ほどの提言書をまとめたということを出せば、地域の課題や問題を的確に捉えていただいております。地域の課題に自主的に取り組んでいくという意識を持っている人が多いと考えています。ただ、加入していない人たちに對しても、地域内の課題に對して、どうやって共通認識を持ってもらうかということについては、自治会としても、周知する



提言書の提議式の様子（平成20年6月27日）

ことが大事だと思いますし、こうした周知を通じて、地域のいろんな活動に参加していただくことに繋げることがポイントだと思います。

昔も今も、自治会の役割というのは、安全、安心に住んで、暮らして、働ける地域社会を作ること、逆にそういう住みよい地域を作るには、自治会がなければできない地域を作るには、自治会がなければできないと思っています。

しかし、最近の住民の方の中には、多様化、高度化したニーズがあり、生活様式も様々になってきています。こうした中で、時代に即した自治会活動というものを考えるには、連携の必要性、自治会の必要性を細谷会長もご指摘されていますが、「地域力は自治会力だ」ということをもつと伝えていただければと考えています。

### 自治会の活動や魅力を伝えることが非常に大切ということですね。

**細谷** 市の十一月十五日号の広報紙で自治会活動についてPRしていただきましたが、私が当たり前と思っていることでも、知らない人が多いと改めて思いました。自分の地域のふるさと祭りの実行委員会の決算報告の時に、ある自治会長がこの広報紙

を持ってきて、ここに載っている活動は初めて知ったので、自分の自治会の活動にも取り入れてやりたい、ということも言ってきたことがあったのです。

自治会の役員といえども、知らないことがあるので、情報をいろいろな媒体で伝えるということは非常に大事だということに改めて感じました。

**市長** この情報周知ということを考える上では、今の生活様式を念頭に置く必要があると思います。例えば、昔であれば、お父さんは働きに出て、お母さんやおじいちゃん、おばあちゃんに家に居て、情報を取って、伝達する、あるいは地域活動に参加してもらおうといった、いろんな情報伝達手段やコミュニケーション手段がありました。

しかし、今は、夫婦共稼ぎで、家に一度や二度尋ねていっても留守なことがあつたりすると思います。今後は、このような方々に対して、情報が伝わらない場合の対策が必要だと思っています。

役員の方も自分の生活もあるので、各地域に住んでいる住民個々の生活実態に合わせたきめ細やかな情報伝達の手段を考えると、なかなか難しいと思いま

すが、行政としても、今回の事例集や広報紙のようなPRでの支援などに取り組むことが必要だと考えています。

## 地域と行政は、今後

### どのような関係を築いていくべきでしょうか？

**細谷** 今は行政からの依頼業務が多いので、自治会長の負担になっている面はあると思います。例えば、地域に配布する行政からの配布物についても、今の地域情報紙に集約されるまでは、非常に多いと感じていました。

これも、行政との話し合いの中で、地域情報紙ができて一定の整理がされて、やりやすくなったと思います。今後、このような行政からの依頼業務について、自治会長や自治会が引き受ける上では、下請け的に行わずに、課題や問題があればすぐに行政に伝えて、しっかりと話しあうことが必要だと思っています。これも行政と自治会の情報共有の一つであると思います。課題や問題の共通認識もなく、ある日突然、降って来たとような話をされると、自治会の方でも、意思疎通がうまくできないところも出てきてしまうと思います。

逆に自治会の側でも、行政に何でも頼むのではなく自分たちでできることは、自分たちで行わないといけない時代にあることを自覚してもらいたいと思います。

## 市長

行政の方でも、例えば、新任の自治会長研修が開催されれば、その中で、自治会にお願いするところがこの位あるということは、事前に知ってもらうことが必要だと思います。また、行政の姿勢としても、すべてを自治会にお願いし、依存するのではないということ、我々の反省として考えていかなければならないと思います。ある事務について、仮に一括依頼が出来るのであれば、庁内調整をして、説明会を行って理解いただくなどの措置をしていかなければ、ならないと思います。今後は、行政から業務を依頼する場合の自治会への対応の仕方を工夫していければと思います。

## お互いの意思疎通を

### うまく図るためには

### どうしたら良いでしょうか？

**市長** 自治会と話し合う場面としては、現在、地域市政懇談会を開催させていただ

ています。市長という職務上、対応しなければならぬ案件が多くあるため、なかなかこの懇談会には出席できませんが、自身は、直接、地域の住民の方と話しをしていきたいと考えています。

最近、地域からは「市長が地域に出てこない」という声を聞いています。これは、年に1回ぐらいは市長と直接話しをしたいという思いであり、さらには、地域の問題を市長に直接知ってほしいということであると考えています。

私自身は、相模原の市長であり、市が大きく変わるときに、都市が向かうべき方向性についての強い意志を持たないと流されてしまうと思っています。本来であればこの私の思いを、地域において一番重要な団体である自治会の会長や皆さんに知っていただきたいと思っています。地域市政懇談会も当初はそういうことで始まったのかもしれないのですが、いつの間にか行政が、地域の要望をうかがう会議になってしまったと思います。道路を直してほしい、交番を作してほしい、小学校のまわりの交通安全上の歩道を確保していただきたいといった話に終始してしまうことになって

います。しかし、このような議題も大切な課題であると思っていますので、実務的、日常的な話として、担当副市長、局長が対応すれば良いと考えています。市政の責任者である私としては、政令指定都市になり、区制を施行する中で地域はどうあるべきか、市政はどうあるべきかを直接伝えていきたいと思っています。

私は、今、特に津久井地域に行っているような話をしていきますが、自治会長さんの集まりで話をして、「そういうことを知らなかった。市長から初めてこういう話を聞いた。」といった声や「こういう話を聞いたかった」という声を多く聞きます。

そういう声を多く聞くにつけ、情報というのは数多く出されていて、市の広報紙などでも伝えてはいるが、なかなか伝わらないのだと感じているところなんです。ですから、こういう直接、地域住民と市政につ







いて話す場の必要性を感じています。例えば、市自治会連合会の会合の中で、そのよくな場を作っていたら、年に1回ぐらいいは地区連合会長の皆さんに直接話をさせていただきます。その場合は、時間はタイトに作らないで、私が話したことに對してフリーに自治会長さんがどんな風に考えていられるのかを話せたら良いと思います。

また政令指定都市移行後は、地区自治会連合会の区域単位に、地域政策担当という地域密着型の行政を担う重要なポジションの職員を配置するので、その地域政策担当が地区自治会連合会の会合で、私の考えや市政の方向性などを話すといったことができると思います。

私は、地域力を高めるという意味では、相模原市のあり方や、進むべき方向について、地域の自治会の皆さんとも共通な情報を持つことが必要だと考えています。今後は、媒体として広報やインターネットでも情報提供しますが、直接顔と顔を合わせて、私が市政の方向や課題について話し、逆に、地域としては、その考えについてこのように思うといった情報交換のできる「市政のあり方について対話できる場」を作っていきたいと考えています。

**細谷** 地域と行政の関係は、先ほど話した「地域を元気にする検討会議」でも議論してきましたが、提言項目の一つでも具体化していこうということで、市自治会連合会の中に、小委員会を立ち上げて、取り組んでいく予定にしています。この中で、今、市長がおっしゃった地域実情や市政について話し合う場のことについても、是非検討してみたいと思います。

### 政令指定都市を目指す 相模原市の「地域力」の今後の 展望をお聞かせください。

**細谷** これまで私が話してきたことは、



司会 矢島部長

何も目新しいものではないことだと思っております。しかし、こういったことが、あまり表に出てこなかったということは事実ですし、この大きな転換の時期に明確になったことは、時宜を得ているし、有る意味当然だと思っております。今後の自治会や地域力を考える上では、行政に「やらされている」という思いだけは、どこかの場面で払拭しなくてはならないと考えています。先ほど市長に提案いただいた自治会と行政が双方向で話あう機会を作ると、逆に現場からの意見も行政に聴いてもらい、情報共有や共通認識を図り、自治会側では、組織をうまくリードして、協力することが必要だと思っております。

今の自治会は時代にあわせて形を変えていきながら、より地域のまちづくりに対応しなければならなくなるでしょう。なくなればそれで良いというものではなく、あまり関心のない人もいるかもしれませんが、逆にこういう時代背景だからこそ必要だということを訴えていけるように努力したいと思っております。

**市長** これからますます市民の生活様式や要求、要望が多様化していく中で、人間社会の常としては、多様化、高度化するにつれ、依存性が高まると思います。そういう意味では、相模原市も市民の中に行政依存、組織依存が残っているとあります。

しかし、「地域力」という視点で一番大事なことは、身近な生活問題に対処するために、地域の「連携」が無いと対処できないということを理解していただくことだと考えています。その「連携」の中心は、やはり自治会になるのだろうと考えています。これから、市民ニーズが多様化する中では、行政だけで対応することはできなくなってきます。今の相模原市では、自治会加入者が少ない中で、地域の安全が保たれ、防災対策もしつかり行われ、福祉対策、環境対策がきちっとできてきているのは、逆に自治会の組織がしっかりしているからではないでしょうか。

自治会活動のような大事な活動は、ある特定の人に背負わせるのではなくて、地域の多くの人の参加のもとで守っていくかなければなりません。これが地域力だと思いますし、「地域力」相模原力につながるかと考えています。

